

アスパラガス新品種育成に関する研究

－ 紫アスパラガス新品種の育成 －

農食環境学群 / 循環農学類 / 農場生態学研究室

園田 高広

[Takahiro Sonoda] 教授 [博士(農学)]



● 研究の概要

北海道内外から収集した優良個体を交配母本とし、地域や消費者ニーズに応じたアスパラガス新品種の開発を行っています。現在は、北海道においてギフト需要の高い紫アスパラガスの育種に取り組んでいます。今後は、病害抵抗性育種にも取り組む予定です。

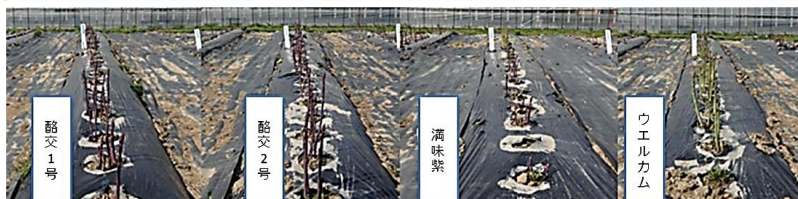
● 研究の内容・特徴

アスパラガスは北海道における主要野菜でありながら、栽培面積および生産量が減少傾向にあります。そこで、地域的な課題を取り上げ、北海道のアスパラガスの生産性の向上のための技術開発および高付加価値化技術の開発に取り組んでいます。現在、取り組んでおります紫アスパラガスの育種では、早期萌芽性を有する良質・多収品種の育成を目標としています。これまで、紫アスパラガスは春取りが中心でしたが、この研究では冬期間に収穫する伏せ込み促成栽培に対する適応性も検討していく予定です。研究段階としては、酪交番号を付与した2系統について生産力検定および地域適応性検定を実施しているところです。紫アスパラガスの品種登録申請は、2017年を目指しております。

今後は、改植時にもその発生が問題となっている疫病および立枯病に対する抵抗性についても研究を展開する予定です。そのため、これらの病害に対して簡易に抵抗性を検定できる手法の開発に着手しています。

紫アスパラガスの新品種開発

- 従来品種‘満味紫’よりも萌芽が早く、収量が多く、若茎の品質の優れた2系統を選抜している。現在は、生産力検定および作型適応性試験を実施中である。



ウエルカムと同程度

ウエルカムよりも遅い

紫アスパラガス系統の春の萌芽の早晚(撮影2015.5.3)

- 酪交1号および2号の萌芽は、満味紫よりも早く、ウエルカムと同等である。
- したがって、ウエルカムと同時期に収穫でき、有利販売に寄与することができる。



紫アスパラガス若茎の品質(定植2年目)

- 酪交1号は、満味紫よりも鮮やかな紫色で、茎径がやや細く、収穫本数の多い系統
- 酪交2号は、満味紫よりも鮮やかな紫色で、茎径が同等で、収穫本数が多い系統

● 用途・応用例

- ・アスパラガスの商品開発
- ・アスパラガスの機能性研究
- ・アスパラガス病害の制御技術の開発
- ・特色あるアスパラガス品種を用いた地域振興
- ・アスパラガス低収要因解析
- ・新品種の機能性強化試験

● アピールポイント

品種開発にあたっては、生産者や消費者ニーズに対応することに重点を置いています。今回の紫アスパラガスの新品種開発は、生産現場の要望に基づいて実施しました。そして、地域適応性試験も要望していただいた生産現場にご協力頂いております。今後も、この基本姿勢により有望な品種の開発に取り組むと考えております。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称：

特許番号：

● 研究室のホームページ